

# 認知症予防

## 特集



# 早期発見へ正しく理解

6月14日は「認知症予防の日」。認知症の発症は日ごころのかけで、ある程度予防することができる。また早い段階で発見できれば進行を遅らせることができ、良好な状態を保つことも可能だ。そのためには周囲を含め、認知症予防を正しく理解し、早期発見につなげることが大切。「認知症は誰にでも起こりうる身近な病気」を意識し、正しく理解を深め、社会全体で対応していくことが求められる。



【プロフィール】浦上 克哉(うらかみ かつや)氏

1980年代から認知症の診療・研究に取り組み。鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座教授を経て、20年4月から同学部認知症予防学講座(寄付講座)教授。同学部付脳神経院(木子市)、信生病院(倉吉市)で認知症の診療を行っている。

鳥取大学認知症予防学講座教授 浦上克哉氏に聞く  
日本認知症予防学会理事長

## 生活習慣や会話大切

認知症予防の第一人者、浦上克哉氏(鳥取大学認知症予防学講座教授、日本認知症予防学会理事長)に、今取り組むべき認知症予防について聞いた。

コロナ禍で認知機能低下  
認知症予防の観点から、コロナ禍で起る生活の変化と今後取り組むべきことは、

この年増、高齢は新型コロナウイルス感染症の感染リスクが高くなった。多くの予防対策は行われてきた。しかし、それは認知症予防とは異なる生活習慣や生活態度を必要とする。認知症の低下が顕著に行っています。現在社会全体がコロナ禍の状態に置かれたらどうなるか。認知症予防の観点から、コロナ禍で起る生活の変化と今後取り組むべきことは、

その中でも認知症予防は、予防の観点から、コロナ禍で起る生活の変化と今後取り組むべきことは、

認知症予防の観点から、コロナ禍で起る生活の変化と今後取り組むべきことは、

知的活動を脳を刺激  
日常生活で心がける認知症予防のポイントは、

認知症予防の観点から、コロナ禍で起る生活の変化と今後取り組むべきことは、

認知症予防の観点から、コロナ禍で起る生活の変化と今後取り組むべきことは、

認知症予防の観点から、コロナ禍で起る生活の変化と今後取り組むべきことは、

近年注目されている認知症予防の観点から、コロナ禍で起る生活の変化と今後取り組むべきことは、

認知症予防の観点から、コロナ禍で起る生活の変化と今後取り組むべきことは、

認知症予防の観点から、コロナ禍で起る生活の変化と今後取り組むべきことは、

### ミニクイズ

認知症予防の観点から、コロナ禍で起る生活の変化と今後取り組むべきことは、

### 「認知症予防の日」記念式典

### 予防の重要性訴え

徳光さん 会話楽しむこつ紹介

認知症予防の最新のエッセンスとして、高齢者の認知機能維持を促進するための結果、認知機能の改善が確認された。認知症予防への正しい理解を呼びかけた。



徳光さん(中央)を交えて行われたトークショー

認知症予防の最新のエッセンスとして、高齢者の認知機能維持を促進するための結果、認知機能の改善が確認された。認知症予防への正しい理解を呼びかけた。

認知症予防の最新のエッセンスとして、高齢者の認知機能維持を促進するための結果、認知機能の改善が確認された。認知症予防への正しい理解を呼びかけた。

### とっとり認知症ポータルサイト

### 分かりやすく 関連情報発信



鳥取県福祉保健部長寿社会課は、認知症に関する情報が一目で分かるよう情報をまとめた「とっとり認知症ポータルサイト」を開発している。サイトでは、認知症コールセンターなど認知症全般、認知症医療、若年性認知症などの各相談窓口、認知症ポータル養成講座など研修や講座の案内など、本人や家族をはじめ、周囲の理解を深める情報が分かりやすくまとめている。

今回の掲載は7月中旬予定